

中道北小学校移転 白井東自治会説明会 会議録

日	時	平成28年8月10日(水) 午後7時30分～8時55分		
場	所	白井町中集会所	当日参加者数	5人
教育委員会	長谷川教育長・数野教育部長・嶋田教育総室長・深澤総務課長・村田総務課課長補佐・土橋総務課係長・鷹野総務課係長			

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 住民説明会の経過の説明
- 4 候補地とその理由の説明

- 5 意見交換

住民 様々なことがあるが100%満足いかないと思うので、ある程度妥協もしなくてはならないことも出てくるので、教育委員会の示している案は、確信を持ってよいとはいえないが、いろいろな条件を考慮すると妥当ではないかと思う。

先に下曾根の方は終わったと思うが、説明会の中で下曾根の人達を中心に中央道南側の案はないのかという意見が出ていたが、今後、下曾根のこの辺の場所とは限らないが開発の関係が出てくる中に、例えば、コストコが出店するという噂があるが、そうなるとだんだん開けていき、教育にとって好ましくないものも出てくるのではないかと思う。ある程度限られた中であれば、将来的にも心配がないので教育委員会の候補地案が良いのではないかと思う。実際に、下曾根の人達は、南側ということで特出しするようなことがあるのか。

教委 下曾根西で37人参加したが、結論からすると複数の方が集約できないとのことであり、この自治会の意見とし集約できないというのが地区としての結論であった。一部の方は、最初の駐在所の近くのAエリアにしてほしいという意見もあったが、このエリアは、畑灌の関係で難しいという説明をさせていただいた。様々な考え方があると思うが、同じ方が何回も発言することになり、その方たちは、どちらかという中央道の南側にしてほしいとする意向が強いと感じた。新聞にも出ていたが、アンケートなら住民も納得するという話をされたが、アンケートについては、教育委員会でもかなり検討した経過がある。

何回か説明会を行いわかったことであるが、初めて説明会に参加した方は、騒音の問題などこれまでの問題が繰り返されている。それについては当たり前であると思うが、本日の資料8ページに防災関係の項目があるが、ある方から、候補地案の液状化現象が危険度大となっていることから、避難所にならないという意見をもらったが、質疑をすればわかるが、地震のときは小学校、水害の時には中道のスポーツ広場となっており、すべて同じ避難所ではない。危険度大となっても、防災マップは、メッシュで碁盤目状になっているので、この地区が危険度大か小かは四角の中で決められているので細かく見ていない。北と南でそんなに違うのかという思いはある。技術により対応できると聞いている。

このような説明が資料だけでは通じないので、説明会に参加してくれている方々が回答してくれるのであればいいが、そうでないとアンケートは危険があると感じている。教育委員会では総合的に判断して、教育環境が良好に保てることを第1に、中道地区の将来的なまちの発展をイメージしたときに、北と南ではどう違うのかなど様々な観点から見て、候補地案がよいと思っている。

自治会長の説明会のときに、自治会長の皆さんが、説明をもってここが良い悪いは言えない、もっと説明会をしてほしいという話があったので、教育委員会の考えを各地区でひざを交えて話をさせていただきたいということで、説明会を開催している。その中で、この学区の皆さんが、こぞって、あるいは大方の人が候補地案では駄目だということであれば、それさえも農振除外の理由になるのかと、そこまで住民の皆さんの思いが強いのであれば、再度、農政担当と協議しなければならないと考えている。

基本的には教育委員会の案を前提に話をさせてもらっているが、こぞって反対ということであれば、それも住民の皆さんの考え方なので、もう一度検討しなくてはいけないという覚悟で来ている。この問題が今年の5月頃から新聞などに掲載されたが、電話などで地区の人達が将来に遺恨を残すような決め方は絶対にしてほしくないとのことで、アンケートについては、中央道北側のほうが人口が多いのでしてほしくないという意見も寄せられている。教育委員会としては、きちんと説明をさせていただいた上で、なるべく多くの皆さんの意見を聞く中で、最終的な判断をさせていただきたいと考えている。

白井東自治会として参加が少ないのは、候補地案で良いと思っているのか、それとも関心がないのか。

住民 関心があまりない。過去4、5回説明会があったが、白井の自治会の方がどれ位参加していたかという点が少ない。

住民 白井西の方がまだ多い。すくなくからず関心を持っている人は参加する。会合の際に、将来の子ども達のためのことであるので参加してほしいとPRをしていたが、当日になると参加者が少ない。また、参加するのはいつもと同じような人である。

教委 第1回の説明会の中で、これ以上通学距離が長くなっては困るという意見が出たが、この意見からすると、白井や下曾根西の自治会の人達は関心が強いのではないかと考えていた。

住民 白井とすれば一番の懸念は通学距離と聞いていたが、住民の考えがなかなか伝わってこない。資料上で見ると中央道南側は現在地よりも500m遠くなる位であり、子供の足だと6、7分位でないかと思う。通学距離は近ければ近いほど良いが、距離の問題はそんなにないのかと感じる。ただし1、2年生については、大変だろうということは想定される。

基本的には中央道より南側の方が良いと思う。一番の理由は、リニアがあり、中央道があり、国道の土手があり、すり鉢上みたいなところで、高いところに囲まれたくぼ地の様な場所に学校をつくるのはどうかと思う。将来的に考えてそこしか土地がないということであれば問題ないと思うが、土地があるので、昔の人はなぜそこに建てたのかということを経年、40年後に言われることが想定されることが考えられる。

騒音、磁場の問題がある。これは実際、学校を建ててみないと、変化がつかみきれない。磁場についても数値的には問題ないといっているが、100%害がないとは言い切れないので、環境という面で見れば、候補地案よりも南側が良い。ただし、距離的な問題について、子供を持つ親がどのように考えるのかは大きな要素として考えられると思う。

南側になったとき校舎が南側に来ることはありえないことだと思う。校庭が見えない教室、職員室というのはありえない建てかただと思う。管理上の問題とすれば、校庭が見えるということ、校舎から職員室から見渡すことができるという安全管理上の問題を含めて考えなければならないことであるので、中央道側に校舎をつくっても中央道との位置的な部分や中央道に遮音壁を建てるなど配慮すれば建てかたによりクリアできるのではないか。

教委 中央道南側において、南側に校舎を絶対建てるということではなく、浸水などを考えると地盤を上げ3階建位の校舎になると思うが、中央道を背負ったときに中央道の土手が11メートルあり、中央道の路面と校舎がフラットになると、遮音壁を建ててもかなり影響が出るのではないかと思っている。教育委員会の測定値で言うと、国道は上りでエンジンを吹かすということや、インターチェンジの影響であると思うが、南側の方が大きい数値を示している。なので、南側に校舎を建てざるをえないのかと感じている。

南側に校舎を建てた場合には、先に小学校があっても、開発が進み大きい会社などが出来てしまうと、校舎が丸見えになってしまう恐れがあるので、開発を妨げ一定の用地を確保する必要があるのかと思ってしまう。

候補地案は、現地へ行き北側の校舎の想定される位置に立ってみると、中央道の土手もさほど圧迫感を感じない。現在の小学校の2階、3階に行ってみたが、眺めは良かった。2階に行くと国道の路面と同じくらいになり、山は見える状況であるので、あまり圧迫感はないと感じている。

中央道南側で南側に校舎を建て、校庭に立つと、背後は11メートルの中央道、前は校舎、横は9mのインターチェンジの土手と国道になるので、こちらの方も閉塞感があるのではないかと思う。これは感じ方の違いもあるが、今の方法でベストを尽くして、騒音に対しては、リニアにフードを架けることや中央道に遮音壁を設置することを要望していくことなど、あらゆる措置を講じて教育環境を良くして行こうと思っている。

教委 中央道の南側については、高速交通の結節点になることが考えられ、今後、様々なかたちで開発が進んでいく可能性が極めて高い地域であると考えている。コストコという話も出たが、今後、そのような話が出てくることも考えられる。現実には甲府青果という会社の移転計画の話もあったことから、教育環境の整備という面では阻害される面も出てくるのかと思う。

また、中道の活性化であるまちづくりということで、開発などについて、市の中では、できれば南側への移転は避けてほしいという意見もある。総合的に考えて、候補地案を示している。

住民 これまでの説明会の中で開発ということを担当者からきいたが、開発ということよりも将来を担う子供たちが学ぶ学校ということを先に考えるべきである。開発ということは当然考えるべきであり、行政として開発のことを考えるのはわかるが、それを前面に出されると地域の住民としては反発せざるをえない。何を優先するかは、立場によって違う。大規模開発の候補地

として有力なので残しておきたいという部分はあるかも知れないが、この地域の人が何を基準として考えるかと言ったら開発は考えていない。それは行政で考えてくださいという部分で、それを前面に出されてしまうと、決定権を持っている人の考え方が先に来ているので、住民が何を言っても同じではないかとなってしまふ。

教委 全部の説明会に参加していただいていると思うが、第1回目の説明会で出た意見を最大限尊重し、総合的に判断し候補地案として示している。第1回目では、A、B、Cとエリアを示し、教育委員会として案を出してほしいという意見から、第2回目に案を示した。2回目の最後のほうであったと思うが、男性の方からまちづくりの観点から考えてもらわなければ困るという意見が出た。2回目、3回目と出ていると思うが、教育委員会でも関係する部署と協議をしているが、その部分については、あまり出さない予定でいたが、意見が出たので、まちづくりのことも考えなければいけないと答えさせていただいた。それありきではないということをご理解いただきたい。

住民 まちづくりという部分に係わって、どこかでその協議がされているとか、その構想を持っているということが、公のかたちの中で一切聞いていない。中道町だった時代については、町の構想としての構想があったと思うが、今は、その部分が支所だけであるから、支所の中でそのような構想があるかと聞いても、おそらくそのような話は出てこない。

将来のまちづくりについて、中道の住民が何らかの構想を持ちながら、どのように考えているのかという部分については、おそらく個人的にまちづくりに関わった考えの部分ではないかと思う。

教委 前知事はリニア駅の周辺は町をつくらないと言っていたが、知事が変わり半径数キロメートルの中でまちづくりを考えるということで、県では検討しているようだが、そのようなことが持ち上がってくるので、市の中でも、当然のことながら知事のいう、リニア駅を中心としたまちづくりが話題となる。そのような視点も出てくるということで、具体的にどうするかということは、教育委員会では分からない状況であるが、可能性としては非常に高い。ただ、言われるとおり、まずは教育環境ということで考えているつもりである。

教委 8ページの比較表に載せさせて頂いているが、教育委員会であるので、一番心配していることは、子ども達の教育環境の変化が激しい場所にはおきたくないという点であり、開発はその情報の一つとして捉えていると考えていただければと思う。開発があるからそこにという考え方よりも、大きな環境変化というものを一番恐れているということである。

住民 白井の出席者が少ないが、小学校の中学年以上が多いので新しい学校に行く人がほとんどいないので来ないということが考えられると思う。通学距離については、中央道南側でもあまり影響はないと思っている。場所的には中央道付近に落ち着くと思っているが、候補地案の道路を挟んで反対側であれば国道からも離れるのではないか。

教委 面積的なものもあるが、東側は部分的に農地を残してしまうので、農振の除外が難しい点が

ある。

教委 一番は、土地の形状であり、校庭の幅が短く、サッカーでは観客のスペースをとることが難しいという問題がある。

住民 候補地案は、子どもの頃から水がつく場所であるがどうなのか。

教委 浸水の想定地域として、全体が同じレベルである。確かに昭和57年に水がついたということがあったが、排水機場が出来てからなくなっていると思う。建設にあたっては、できる限りの対応を考えている。

住民 中央道、土手、リニアに挟まれるということで景観の影響が心配される。

教委 高さもあるが、傾斜の角度も圧迫感には影響すると思うが、幸いと言っていいのか分からないが、中央道の傾斜は法面の幅もっており植栽もされているので、グリーンベルト的な景観であると思う。側道に立ってしまうと見上げる形になるが、校舎想定地から見る限りでは、圧迫感はあまり感じられなかった。国道のほうが法面の角度がきついので気になるとは思うが、現在地と同じ状況であるので違和感はないと思う。

住民 候補地案に建てた場合、リニアと交差することになるので、まったく見えなくなることが想定されるが。

教委 リニア自体もまったく壁ではなく、橋脚の間が約40メートル離れているので、まったく見えなくなるわけではない。確かに山がどこまで見えるかは想定でしか分からないが。現在の校舎の2階、3階から実際に見たところ、土手自体があまり気にならない感じを持っているので、圧迫感という点では、きついという感覚ではなく、あまり感じられないという感想である。

住民 周りの小学校へ通っている人達に聞くと、中央道とリニアの真ん中になると窮屈と言っており話を聞くとそうであるとも思ったが、リニアの高架が高いので大丈夫かなと思った。リニアに乗る機会があり、近くでリニアを見たが、ものすごい速さで通過したので怖く感じた。

教委 リニアの高架が高いので、周辺だとどのくらい車両が見えるのも分からない。間近で見た恐怖感というのは少ないのではないかと思う。

住民 候補地案はすり鉢状であり、図面と実際の完成図がないので想像することが出来ない。
実際に御坂町のリニアの高架を見るとかなり高い。児童館と駐在所があるAエリアについて、小学校以外の施設は建てないということで農振の除外が出来ないものなのか。

教委 Aエリアについては、国の事業が入っているので、開発等による除外は、協議する中で難しいと言われている。リニアについては、それ以上に優先されるものであるので通すことが出来

るが、学校とはいえ通常の扱いと一緒にする。

教委 今回の学校の構造だと、廊下を北側、教室を南側に配置し、明かりを取り入れて校庭も良く見えるというかたちになってくると思うが、廊下は結果として、防音壁的な役割を果たすことになるので、北側に音が出るものがあった場合について、授業中については、南側を回って音が入ってくるということになるので、若干、音は抑えられる傾向がある。リニアの軌道より南側がよいという部分もある。

住民 下曽根西の地域でいろいろな意見がある中で、集約できないというのは当たり前のことであると思う。いろいろな意見を100%聞いてもらいその中で判断してもらいたい。最終的には莫大な費用と労力をかけて建設するものであるため、完成してから問題が出るようなことが基本的に起こることがない中で、移転をしてほしい。アンケートの話があるが、多数決で決められる話でもないため、最終的な判断は、学校を管理する教育委員会、市が判断していくのかと思う。そのときに環境の問題等、最大限意見を取り入れてもらい数年後の校舎建設に向け対応してほしい。決定後という部分でいえば、どこに建設するにしても、環境の問題には最大限配慮した学校にしてほしい。

騒音についても平均ではなく、たとえ数秒であっても、最大値がかなり高いのであれば、それを何とかクリアできる構造上の問題等で対応してほしい。

本日5人と少ないが、これもひとつの意見として受け止めていただき、教育委員会が最終的に決定する移転地の参考にしていただければと思う。

教委 今後については、各自治会を回り意見を集約検証し状況を踏まえ、教育委員会として皆さんのコンセンサスが得られるよう、移転先を決定していきたいと考えている。

6 閉会